



選手としてだけでなく、ヘッドコーチとしてもチームを導く上玉利さん。経験を生かし、楽しさを軸に鹿児島の車椅子バスケットを成長させている。



車椅子バスケット鹿児島県代表ヘッドコーチ
薩摩ぼっけもんヘッドコーチ

か み た ま り あ き こ

【上玉利 明子】さん

車椅子バスケットとの出会い

学生時代はバレーボール部に所属し、社会人になってからもバレーボール選手としてプレーしていた上玉利明子さん。現在は、鹿児島を拠点に活躍する車椅子バスケットボールの選手であり、ヘッドコーチを務め、プレーヤーとしても指導者としても、チームの中心として活躍しています。

上玉利さんの車椅子バスケットとの出会いは、大学時代。当時入部していたバレー部の顧問の先生から、障害者スポーツの研究をしている時に、「実際に体験してみてもどうか」と勧められ、車椅子バスケットのチームの練習を見学したのが始まりです。「選手がアグレッシブで、本当に楽しそうにプレーしていて、その姿に心を奪われました。」競技体験では車椅子の操作に戸惑いつつも、それ以上にプレーする楽しさが大きく夢中になったといいます。

当初、マネージャーとして車椅子バスケットに関わっていましたが、数年後、ルール改

定により、健常者でも大会プレーヤーとして出場できる環境になったことやバレー競技中の膝の怪我が契機となり、本格的に車椅子バスケットに打ち込むようになりました。その後、九州で唯一の車椅子バスケット女子チーム「九州ドルフィン」に加入。車椅子バスケットは、全国から強豪が集う「皇后杯」をはじめ、地域毎の大会も数多く開催されています。上玉利さんも多くの大会に出場しました。

*「皇后杯」…女子選手の車椅子バスケット全国大会

指導者としての活躍

九州ドルフィンでの選手引退後は、鹿児島の車椅子バスケットチーム「薩摩ぼっけもん」で選手兼ヘッドコーチとして活動するだけでなく、鹿児島県代表チームのヘッドコーチも務めています。

選手の指導で大切にしていることは、選手一人ひとりの自立です。指示を待つことが多かった選手たちも、問いかけを重ねることで、自ら考

え、意見を話すようになりました。「自分で答えを見つけれられるようになった姿を見られたことが、苦労でもあり、嬉しかったです。」と振り返ります。

現在は、県代表チームの「全国障害者スポーツ大会」出場、「薩摩ぼっけもん」の「天皇杯」への出場を目標に練習に励んでいます。「これまで車椅子バスケットで学んだ経験を県代表チームに還元したいと考えています。一人ひとりの力を引き出し、チームで戦う楽しさや達成感を感じてもらえるよう、日々の練習では声かけや関わり方にも気を配っています。」と思いを語ってくれました。

*「天皇杯」…クラブチーム日本一を決める車椅子バスケット全国大会



週に3回(月曜、木曜、土曜)、ハートピアがごしまで健常者車椅子バスケットチームと合同練習をしている。



自主練習の日は、自身の課題に向き合い、仲間と一緒にレベルアップを目指している。

鹿児島県車いすバスケットボール連盟

事務局長 吉田 昇司

TEL 080-5244-2477